

登録コード	J5500200	開講年度	2026				
授業科目	開発経済学					担当教員	YANG JIE
英文授業名	Development Economics					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3時限	対象学年	(23カリ対象科目) 経：2年
講義室	経法第1講義室	授業区分	講義	遠隔授業科目			
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	経法23加（2026改）・応用経済，経法23加・応用経済						
	専門知識を応用・実践する力として，計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価，実験経済学による社会制度の機能の検証，医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘，法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証，などのスキルを習得し，経済の実情に即した政策提言，あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。					⇔	開発経済学の基本概念・基礎用語を習得し，貧困の構造，開発の失敗（市場・制度・政策の失敗等）とその対応策を，経済学の視点から論理的に理解できるようになること
	【2020年度以降カリ対象】専門領域での基礎知識として，経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして，経済理論の応用分野として，金融，公共政策，法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで，専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。					⇔	開発途上国・新興国における経済現象や解決すべき開発課題について，授業で学んだ理論・事例・議論を踏まえ，根拠を示しながら独自の視点で分析・考察できるようになること
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本講義では，開発途上国および新興国が直面する開発課題を取り上げ，それらがどのようなメカニズムで生じるのか，またどのような政策的対応が可能かを，経済学の視点から理解することを目的とする。講義の前半では，開発経済学の基礎理論を確認したうえで，経済発展に伴う構造変動（産業構造・労働移動・都市化等）を中心に学ぶ。あわせて，貧困の罍，産業集積，都市の機能，インフォーマル経済など，開発経済学を理解するうえで基本的な概念と論点を整理する。後半では，アジア地域の経済発展の特徴，キャッチアップ型工業化などを概観し，具体的事例を用いながら貧困削減政策や開発援助の成果と限界について検討する。さらに，途上国の環境問題，貧困と環境問題の悪循環，持続可能な発展といったトピックも取り上げ，開発と環境の両立に関する論点を考察する。						
(5)授業計画	第1回 ガイダンスと授業概要：開発経済学の研究対象 第2回 貧困の測り方と貧困の構造：経済発展，貧困と不平等の指標・データ，貧困の構造 第3回 経済成長と発展の理論I：古典開発理論，農工商資源移転と資本蓄積，二部門発展モデル 第4回 経済成長と発展の理論II：現代開発理論，社会資本，ネットワークの形成 第5回 経済発展と農業問題：農業の産業特性，人口動態と開発 第6回 途上国の信用市場：信用の経済的役割と途上国の信用市場の特徴 第7回 人的資本と発展I：貧困の罍，人的資本蓄積，教育・健康から見る開発 第8回 人的資本と発展II：教育と労働のトレードオフ 第9回 都市開発とインフォーマル経済：メガ都市や都市貧困の形成要因 第10回 集積のメカニズム：産業集積，工業化と生産性 第11回 アジアの発展経験：アジア地域経済発展の特徴，キャッチアップ型工業化 第12回 貧困の罍から脱出I：開発戦略，技術革新の役割とその制度 第13回 貧困の罍から脱出II：貧困削減政策，開発援助とその課題 第14回 開発と環境問題：貧困と環境問題の悪循環，途上国の持続可能な発展 第15回 総括・授業アンケート ※授業の進行状況に応じて授業内容や実施日を変更することがある						
(6)成績評価の方法	・ 授業内での複数回課題や小テスト(60%)と，最終課題や期末レポート(40%)で評価する ・ 課題や小テストは概ね3講義につき1回の頻度で計5回実施する。授業の進行状況に応じて実施回数や時期を変更することがある						
(7)成績評価の基準	中間課題や小テストの評価（複数回，60%） 授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「合格水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。また，課題によってはグループワークで評価することがある。 最終課題や期末レポートの評価（40%） (I)問題の設定が適切であり，(II)その問題や事例の背景を説明できており，(III)その問題や事例にどのような課題があるのかを指摘できており，(IV)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており，(V)その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(I)から(V)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	・ 講義資料の予習と復習，また参考書を講義の前後に読むことが望ましい ・ テキスト・参考書の該当箇所と新聞・雑誌・WEBサイト（例えば国連，世界銀行，アジア開発銀行などのホームページ）の開発経済に関する記事を読むことが望ましい ・ よく見られる開発課題とその取り組みを調べてみよう ※この講義は60時間以上の時間外学習が必要となる						

(9)履修上の注意	・ ミクロ・マクロ経済学、公共経済学及び国際経済学を履修済みであるか、あるいはこの授業と併せて履修することが望ましい
(10)質問,相談への対応	授業前後、またはオフィスアワーで個別相談可 ・ 事前にメール（yangjie@shinshu-u.ac.jp）でアポをお取りください
【教科書】	指定しない（講義資料を用いた講義形式）
【参考書】	参考書として以下の文献をあげる。個別の参考書や資料は講義中に適宜紹介する。 ・ 山形辰史（2023）「入門開発経済学：グローバルな貧困削減と途上国が起こすイノベーション」中公新書 ・ 大塚啓二郎（2020）「なぜ貧しい国はなくなるのか 正しい開発戦略を考える」日本経済新聞出版 ・ 黒崎 卓、山形 辰史（2017）「開発経済学：貧困削減へのアプローチ」日本評論社 ・ 黒崎 卓、栗田匡相（2016）「ストーリーで学ぶ開発経済学」有斐閣ストゥディア